2025年度 児童館年間利用数

渦森台児童館

2024年度							2025年度						
学年	学童登録人数		延長保育				学童登録人数		延長保育				
			17時～18時		18時～19時				17時～18時		18時～19時		
1年	40	名	8	名	8	名	26	名	4	名	2	名	
2年	28	名	5	名	1	名	38	名	10	名	6	名	
3年	26	名	3	名	6	名	29	名	4	名	4	名	
4年	20	名	2	名	2	名	21	名	1	名	4	名	
5年	16	名	0	名	2	名	12	名	1	名	2	名	
6年	3	名	0	名	0	名	16	名	0	名	2	名	
合計	133	名	18	名	19	名	142	名	20	名	20	名	

自由来館者数													
2024年度							2025年度						
幼児	小学生		中高生	大人	その他	合計	幼児	小学生		中高生	大人	その他	合計
	1～3	4～6						1～3	4～6				
552	191	166	98	912	2,768	4,687	554	312	222	118	1001	3,062	5,269

学童年間利用数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2024年度	2,131	1,875	1,893	2,055	1,608	1,795	1,958	1,743	1,689	1,674	1,480	1,895	21,796
2025年度	2,089	2,001	2,118	2,339	1,698	1,997	2,068	1,578	1,888	1,751	1,502	1,885	22,914

ヒヤリハット　A（危険度重）B（危険度中）C（危険度軽）	事故報告　（受診を要した件数）	要望・意見・苦情　報告
A：　0件　B：　1件　C：　1件	7件	要望：　2件　意見：　0件　苦情：　1件

方針	基本	重点目標	計画（P）	実践内容（D）	評価（C）	改善　（A）
サービスの質の向上	1	子育て支援の強化	・なかよしひろば（毎日） ・お弁当タイム（毎日） ・プログラム（週2回） ・ママカフェ（月2回） ・のびのびひろば（月1回） ・子育て相談（随時） ・ねんねアート（月1回）	・引き続き、子育てチーフアドバイザーを毎日配置し、利用される親子と親しくなることで、安心して来館してもらい、関わりやすさに努め子育て相談に繋げる ・のびのびひろばでは、土曜日に講師を招いてプログラムを開催してもらう ・SNSインスタグラムにてひろば事業の報告（随時） ・SNSストーリーズにてプログラムのお知らせ（週2回） ・SNS東灘区ためマップ、HPの活用（月1回）	・昨年と同様、なかよしひろばのママカフェ時は、主任児童委員が託児を担当してくださり、保護者が安心してくつろぐ事ができ、喜ばれていた ・昨年の反省を踏まえて、様々な市民講師の先生に依頼したり、チーフアドバイザー会議の際に得た情報を使ったりして、びのびひろばでは、毎月講師を招くことができた ・SNSの活用で様子が分かりやすく、参加親子も増えた様子であった。今年度からのねんねアートもSNS映えし、利用者を獲得するきっかけとなった	・引き続き、子育てチーフアドバイザーを毎日配置したり、主任児童委員にママカフェの託児を依頼したりし、いつ来館しても安心して利用していただける児童館となるよう心掛ける ・のびのびひろばでは、土曜は家族で過ごし、参加したくてもしづらいという意見を頂いたため次年度は、平日の企画を試みる ・新年度になると、ねんねアートの日程を知らない方ばかりになるため、事前に必ずSNSストーリーズにてお知らせを行う
	2	児童育成の拡充	・主体性をもった行事への参加や取り組み（随時） ・ダンス教室の継続（週3回）と行事での発表（年5回） ・チャレンジしてみよう（月1回） ・不登校児支援（随時） ・中高生の学習支援・遊び支援（週1回）	・積極的なお手伝いや、行事への参加人数増員を目指す　・職員も一緒にダンスレッスンに入り、サポートしたり声掛けをしたりする ・普段体験できない、特別なプログラムを行って下さる講師を招き実施する ・いつでも不登校児の受入れができるような職員配置を行う ・中高生の学習支援ができる職員の配置と、軽食提供や中高生向けの遊びの準備を行う	・クリスマス会では、出演や司会をしたいとの声が多く挙がり、職員も含めて3回実行委員会を行った。こどもの意見を尊重し、進行や提案は児童が行い、職員は、児童への助言や外部ボランティア団体への出演依頼を行った ・ダンス教室では、特に男子の参加が増え、活気がでていた。地域行事では、一般の方も一緒に踊ることのできる場所を設け、一緒に楽しく体を動かすことが出来た ・中学生の不登校生には、保護者と連携し、引き続き本人の特技を活かし、行事でお世話になった地域の方へのプレゼントを作ってもらった。手の込んだ作品に、非常に喜んでおられた ・中高生の学習支援では、昨年度の反省を踏まえて16時より中高生の居場所を確保し、遊んでから勉強をしたり、職員と話したり、思い思いに過ごす姿が見られた	・実行委員会を行うことで、児童の気も引き締まり、進んで発言をしていた。次年度は、他の行事でも有志の実行委員会を行い、児童主体での行事が増える様にしていきたい ・ダンスチームの発表では、地域の方と一緒に踊ることができてよかった。今後も、どの世代も知っている曲で簡単な振り付けの演目を増やしていく ・不登校生には、保護者と連携し、好きな事を見つけ活躍できるような支援をしてきたが、高校進学に伴い支援の幅を増やし、本人が希望するなら、少しずつ社会参加を提案してみる ・中高生の学習支援・遊び支援では、新規の中高生受け入れの向けて広報方法を模索する必要がある
地域との共生	3	地域との連携	・小中学校の体験学習への協力 ・魅力的な行事企画で各団体と協力し、子育てコミュニティ事業の充実を図る（年10回）　・積極的な地域行事への参加と協力 ・ボランティアの募集と受入れ	・主任児童委員と連携し、なかよしひろば親子と5年生が交流できる機会を設ける（命の感動体験学習） ・積極的に中学生（トライやる）の受入れを行う ・コミュニティ事業では、幼児から大人までが参加できる行事の企画をする　・地域行事（盆踊りや花火大会の出店）に積極的に参加し、地域の活性化に協力する。 ・児童館便りやSNSを活用し、ボランティアの募集を行う	・命の感動体験学習では、なかよしひろば親子が都合をつけて下さり、小学生は貴重な体験をすることが出来た。 ・トライやる受入れは、元学童の中学生が意欲的に活動してくれた。、活動終了後も定期的にボランティア訪問をしてくれている ・日曜開放（ハロウィンパーティー）では、景品の過不足の無い様に定員を設けいた為、参加できなかった児童もいた。 ・特に花火大会では、ヨーヨーとスーパーボールの出店をし、地域の方に声を掛けて頂いたり、こどもの笑顔を見たりして、職員にとっても心に残る行事となった。トライやるの中学生や、元学童の高校生も手伝いに来てくれ、これまでの関わりや信頼関係が継続していることが感じられた。	・今年度も引き続き、ＳＮＳの活用や法人内こども園での呼び掛けで、より多くの地域乳幼児親子に、命の感動体験学習への参加を募る ・地域力を活かした行事に力を入れ、地域団体と連携し、心に残る行事開催を目指したい ・コミュニティ行事に定員は設けず、簡易的な景品を準備したコーナー形式にし、より多くの地域のこどもが参加できるよう配慮する ・元学童にとって、児童館が安心して戻ってこられる居場所として機能しているので、今後も継続した関係づくりが重要である
	4	年間利用数	・親子館事業・自由来館年間利用者予定数2,000名の受入れをする ・放課後児童健全育成事業（学童保育）19,000名の受入れをする	・親子館事業・自由来館年間利用者予定数　5,269名の受入れをする ・放課後児童健全育成事業（学童保育）　22,914名の受入れをする	・親子館事業・自由来館者数は、予定数の倍以上の利用があり、毎年少しずつ増えていっている。各世代の興味に合う魅力的なプログラム企画は、ニーズがあると感じた。個人情報漏洩にならないよう配慮しながら今後もSNSを活用していきたい	・親子、児童、中高生に魅力のある活動を今後も企画し、SNSで早めにPRしていく。 ・行事の申し込み方法を電話以外でもできる様にし、更に参加人数増加を期待する（QRコード） ・また行きたいと思ってもらえるような環境作りと職員対応を心掛ける。